

平成 30 年 2 月 22 日掲載

<子供たちに税の使途について考える機会を提供した好事例>

教育から共育へ

福岡西部法人会（福岡）

<活動対象> 中学 3 年生

<活動の概要>

- ・「考えさせる租税教育」をテーマに、「村に橋を作る為に公平にお金を集める」という例題を提示。グループディスカッションを通して、子供たち自身に考えてもらう。
- ・お金を集める方法の例として、講師から5つの方法を提案し、良いと思ったものに何度でも挙手できるというルールにした。結果として複数回の挙手が多く見られ、何が「公平」なのか迷っている様子が見えられた。
- ・何が「公平」なのかを子供たちに考えさせるのが狙い。子供たちからは様々な意見が上がり、租税教育を通して考え方や価値観は多様であることを子供たちに伝えることができた。

<参考資料>

「租税教育活動」事例発表

<摘要>

特になし

<出典>

平成 27 年度租税教育活動プレゼンテーション（茨城大会）より

共に考える租税教育

【子供たちと共に考える】

子供たちは、どういう方法が公平なのか決めるのが難しく、公平にも考え方が色々あるということを実感していました。

これが、税金の大切な要素なのです。

私たちは、公平の難しさ故に税には約50種類もあり、復興特別税のように税金は自分たちのことだけでなくとも生きる助け合いのために必要であるとも説明しました。



【子供たちから出た意見】

子供たちからは、私たちが想像もしていなかったような意見もたくさん出ました。中には、消費税UPも話題に上がっていました。

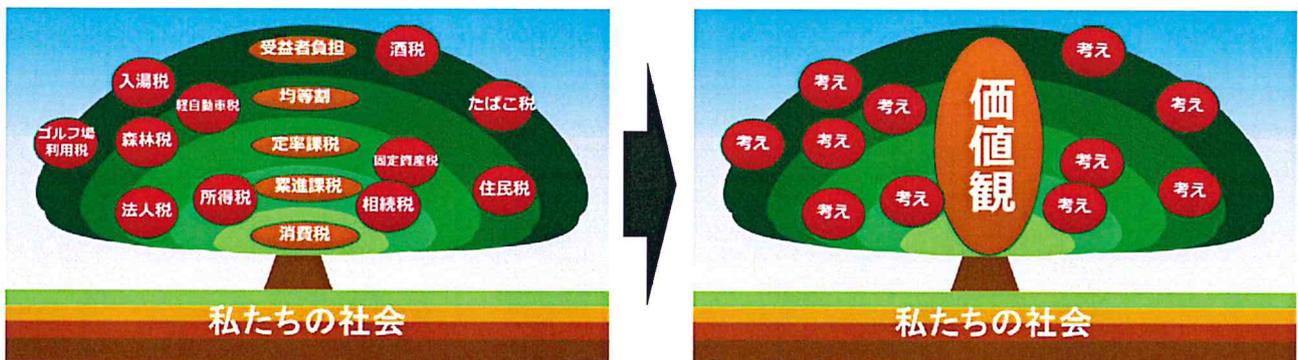
- 収入が多い人からは多く集めて、収入が無い人からは消費税で集めるのが公平だと思う。
- 今まで消費税5%で公平だった社会が、少子高齢化など環境の変化によって公平の基準が変わり、8%へ変更することによって公平のバランスが取れるようになったのではないかと？
- チャリティイベントを開催して募金を募る。

こういった子供たちから出た意見は、私達大人にとっても学ぶべきものがありました。

【価値観・考え方の違いについて】

「公平」という一つのことを皆で考えたとき、様々な意見や考え方があるように、人それぞれ考え方や価値観は多様であるということをお子たちに訴えました。

考え方や価値観が同じ人と一緒に良いけれど、違うからと言って「LINEはずし」などせずに、「こういう考え方の人もいる」と認め合うことが大切だということをお説明しました。



【先生の感想】

昨年も租税教育の授業も拝見させていただきましたが、前回よりも子供たちが、より一生懸命税に対して考えることが出来て、本当に良かったと思います。

現在、教育指導要領の中にも、子供たち自身に考えさせるカリキュラムを入れるということがあます。ディスカッション形式の授業はその指導要領にも本当に即して大変良かったです。私たち教員も、子供たちがあんなに様々な意見を持っていることに正直驚きました。

